

8.13 交通渋滞

8.13.1 調査事項

調査事項は、表 8.13-1 に示すとおりである。

表 8.13-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	・ 工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度
予測条件の状況	・ 工事用車両の走行の状況 ・ 一般車両の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行ルートは、複数のルートに分散させる。 ・ 工事の実施に当たっては、必要に応じて海上輸送を行う。 ・ 建設発生土は現場内利用を基本とし、現場内で利用できない場合についても中央防波堤内で利用する計画とすることで、周辺市街地への影響に配慮する。 ・ 工事用車両の集中稼働を行わないよう、工事工程の平準化に努める計画である。 ・ 朝・夕の周辺交通量が多くなる時間帯には、極力工事用車両の走行を控える。 ・ 工事用車両出入口に交通整理員を配置し、工事用車両の出入りに伴う一般交通流への影響を低減する。 ・ 工事用車両の走行に当たっては、安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車等をすることがないように、運転者への指導を徹底する。 ・ 工事用車両の走行に伴う周辺市街地への影響を極力軽減するため、中央防波堤地区において同時期に行われる臨港道路中防内5号線、中防外5号線及び中防外3号線の整備、(仮称)東京港臨港道路南北線建設計画の事業者との協議を行う等の調整を図る。

8.13.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.13.3 調査手法

調査手法は、表 8.13-2 に示すとおりである。

表 8.13-2 調査手法

調査事項	工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度	
調査時点	工事用車両の走行台数が最大となる時点(工事着工後 17 か月目)とした。	
調査期間	予測した事項	平成 29 年 12 月 27 日の工事用車両の走行時間及びその前後 1 時間を含む時間帯(4 時～翌 4 時)とした。
	予測条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 「予測した事項」と同時期とした。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とした。
調査地点	予測した事項	工事用車両走行ルート上の 3 地点(図 8.1-1 (p.39 参照)に示す地点 No.1~3)とした。
	予測条件の状況	【工事用車両の状況】 工事用車両の出入口の 4 地点 (図 8.1-1(p.39 参照)に示す地点No.A~D)とした。 【一般車両の状況】 工事用車両走行ルート上の 3 地点(図 8.1-1 (p.39 参照)に示す地点 No.1~3)とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	ハンドカウンタによる計測 (大型車、小型車の 2 車種分類)
	予測条件の状況	ハンドカウンタによる計測 (大型車、小型車の 2 車種分類)
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

8.13.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度

工事用車両台数が最大となる時期における工事用車両台数は、表 8.13-3 に示すとおりであり、工事用車両出入口のNo.A は大型 227 台、小型 468 台、合計 695 台、No.B は大型 60 台、小型 32 台、合計 92 台、No.C は大型 746 台、小型 214 台、合計 960 台、No.D は大型 4 台、小型 74 台、合計 78 台の合計 1,825 台が出入りしていた。

計画地周辺のNo.1～3における断面交通量は、表 8.13-4 に示すとおりであり、No.1 は大型 17,463 台、小型 14,239 台、合計 31,702 台、No.2 は大型 27,864 台、小型 21,903 台、合計 49,767 台、No.3 は大型 17,679 台、小型 9,460 台、合計 27,139 台であった。

表 8.13-3 工事用車両の走行に伴う交通量の調査結果（計画地出入口）

(単位:台/日)

調査地点	交通量		
	大型車	小型車	断面交通量合計
No. A	227	468	695
No. B	60	32	92
No. C	746	214	960
No. D	4	74	78
合計	1,037	788	1,825

注) 表中の地点番号は、図 8.1-1 (p.39 参照) に対応する。

表 8.13-4 断面交通量の調査結果

(単位:台/日)

予測地点		交通量		
		大型車	小型車	断面交通量合計
No. 1	幹線臨港道路新木場若洲線 [江東区若洲 3-1]	17,463	14,239	31,702
No. 2	東京港臨海道路 [大田区城南島 3-4]	27,864	21,903	49,767
No. 3	臨港道路青海縦貫線 [江東区青海 3-1]	17,679	9,460	27,139

注) 表中の地点番号は、図 8.1-1 (p.39 参照) に対応する。

2) 予測条件の状況

ア. 工事用車両の走行の状況

工事用車両の状況は、「8.1 大気等 8.1.4 調査結果 2) 予測条件の状況 ウ. 工事用車両の状況」(p.41～44 参照) に示したとおりであり、大型車 1,037 台/日、小型車 788 台/日、合計 1,825 台/日であった。

イ. 一般車両の状況

一般車両の状況は、「8.1 大気等 8.1.4 調査結果 2) 予測条件の状況 エ. 一般車両の状況」(p.45～46 参照) に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.13-5 に示すとおりである。

表 8.13-5 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> • 工事用車両の走行ルートは、複数のルートに分散させる。 	<p>周辺の配慮すべき施設への対応として、幹線臨港道路新木場若洲線、東京港臨海道路、臨港道路青海縦貫線に走行ルートを分散させ、工事用車両の平準化に努めた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 工事の実施に当たっては、必要に応じて海上輸送を行う。 	<p>鋼管矢板工事、鋼管杭工事においては船舶による海上輸送を実施し、工事用車両の走行に伴う沿道環境への影響の低減に努めた。(写真 8.13-1)</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 建設発生土は現場内利用を基本とし、現場内で利用できない場合についても中央防波堤内で利用する計画とすることで、周辺市街地への影響に配慮する。 	<p>建設発生土は場内利用と中央防波堤地区内で利用し、周辺市街地への影響の低減に努めた。(写真 8.13-2～写真 8.13-3)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 工事用車両の集中稼働を行わないよう、工事工程の平準化に努める計画である。 	<p>運転者に対して事前に搬入出車両台数及び時間帯を確認・調整することにより、車両の集中を避け、平準化を図った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 朝・夕の周辺交通量が多くなる時間帯には、極力工事用車両の走行を控える。 	<p>朝(8時～9時)・夕(16時～17時)の周辺交通量が多くなる時間帯には、極力工事用車両の走行を控えた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 工事用車出入口に交通整理員を配置し、工事用車両の出入りに伴う一般交通流への影響を低減する。 	<p>工事用車両が出入するゲートには、交通整理員を配置した。(写真 8.13-4)</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 工事用車両の走行に当たっては、安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車等をすることがないように、運転者への指導を徹底する。 	<p>工事用車両は極力施工ヤード内に誘導するとともに、工程会議等で周辺市街地での待機や違法駐車防止の徹底について指導を行った。(写真 8.13-5)</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 工事用車両の走行に伴う周辺市街地への影響を極力軽減するため、中央防波堤地区において同時期に行われる臨港道路中防内5号線、中防外5号線及び中防外3号線の整備、(仮称)東京港臨港道路南北線建設計画の事業者との協議を行う等の調整を図る。 	<p>臨港道路中防内5号線、中防外5号線及び中防外3号線の整備及び東京港臨港道路南北線建設計画の事業者と合同会議において作業計画等について情報共有を行い、周辺市街地への影響を低減するように努めた。(写真 8.13-6)</p>



写真 8.13-1 海上輸送による資材搬入



写真 8.13-2 発生土現場内利用



写真 8.13-3 発生土の中央防波堤区内利用



写真 8.13-4 交通整理員



写真 8.13-5 工程会議



写真 8.13-6 合同会議

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度

工事用車両台数が最大となると想定された代表的な1日における、断面交通量の予測条件とフォローアップ調査結果との比較は表 8.13-6 に、工事用車両台数の予測条件とフォローアップ調査結果との比較は表 8.13-7 に示すとおりである。

工事用車両台数（小型車）のフォローアップ調査結果は評価書時を上回ったが、関係者への聞き取りによると、小型車は、巡回や連絡等のために計画地内を移動し、複数の出入口（A～D）でカウントされたため、台数が多くなったものと考えられる。このため、計画地周辺のNo.1～3地点においては、工事用車両（小型車）による走行はほとんどなく、また、フォローアップ調査による断面交通量は評価書時と比べ同程度又は下回っていることから、工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生や交通流の変化はほとんどないものとする。

計画地内においては、工事用車両（小型車）が出入口間を移動し、一般車両と合流することにより、局所的に交通流に若干の遅れが生じた可能性が考えられるが、出入口を結ぶ交差点では右・左折レーンの設置や信号制御が行われ、東西に延びる東京港臨海道路本線と計画地内交差点は構造的に分離されており、さらに、各出入口に向かうレーンは行き止まりのため、一般車両との合流は限られることから、工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生や交通流の変化はほとんどないものとする。

表8.13-6 予測条件とフォローアップ調査結果との比較（断面交通量）

予測地点		断面交通量（台/日）							
		予測条件				フォローアップ調査結果			
		大型車	小型車	合計	大型車混入率	大型車	小型車	合計	大型車混入率
No.1	幹線臨港道路新木場若洲線 [江東区若洲 3-1]	17,316	15,369	32,685	52.9%	17,463	14,239	31,702	55.1%
No.2	東京港臨海道路 [大田区城南島 3-4]	32,702	20,408	53,110	61.6%	27,864	21,903	49,767	60.0%
No.3	臨港道路青海縦貫線 [江東区青海 3-1]	21,031	11,071	32,102	65.5%	17,679	9,460	27,139	65.1%

注) 表中の地点番号は、図 8.1-1 (p.39 参照) に対応する。

表8.13-7 予測条件とフォローアップ調査結果との比較（工事用車両台数）

車種	工事用車両台数（台/日）	
	予測条件	フォローアップ調査結果
大型車	1,214	1,037
小型車	54	788
合計	1,268	1,825